

平成 29 年度
北海道 150 年事業実行委員会第 2 回総会 議事録

日時：平成 29 年 12 月 19 日（火）13:30～14:30

場所：京王プラザホテル札幌 2 階 エミネンスホールA

【出席者】

<委 員>

高橋はるみ会長（北海道知事）、名和豊春会長代行（北海道大学総長）、高橋賢友副会長（北海道経済連合会会長）、佐藤季規北海道商工会議所連合会理事（岩田副会長代理）ほか計 61 名出席（出席 36 名（うち兼務 3 名）、代理出席 25 名）、欠席 28 名

<監 事>

二階堂裕隆監事（（株）道銀地域総合研究所 代表取締役社長）

<事務局>

（北海道経済連合会）菅原理事・事務局長、山崎企画総務グループ次長

（北海道商工会議所連合会）守山事務局長

（北海道）窪田副知事、佐藤総合政策部長、赤塚北海道 150 年事業室長、岩崎参事、

今田主幹、丹野主幹、早田主査、武藤主査、宮武主査、木村主事

● 佐藤総合政策部長（事務局：北海道）

それでは、定刻になりましたので、「平成 29 年度 北海道 150 年事業実行委員会 第 2 回総会」を開会いたします。事務局を務める、私、北海道庁総合政策部の佐藤と申します。どうぞよろしくお願いをいたします。本日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

まず初めに、私の後ろの方に掲げているこの作品を紹介させていただきます。これは、滝川市立明苑（めいえん）中学校美術部の生徒さん達が描いたものでございまして、滝川市出身の日本画家、岩橋英遠（いわはし えいえん）が描いた松浦武四郎の絵画をモチーフとしております。詳しくは、お手元にお配りしている資料をご覧くださいと思います。

それでは、高橋会長からご挨拶を申し上げます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

北海道知事の高橋はるみでございます。本日は、師走の押し迫った中、大変お忙しい中、こうやってご出席を賜りまして誠にありがとうございます。開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

今年も余すところ 10 日あまりということになりました。そして、それが明けますと、いよいよ北海道 150 年を迎える、2018 年の幕開けというところでございます。皆様方におかれましては、これまで、予算や事業計画の審議、PR などについてご尽力を賜りましたこと、改めて心から御礼を申し上げる次第であります。

道内外の 130 を超える企業・団体の皆様方に「パートナー」としてご参画いただくとともに、道民の皆様方が様々な形で取り組む「北海道みらい事業」が 300 件を超えるなど、機運の高まりを私自身感じているところございまして、その幕開けを、心から楽しみにしているところでございます。

本日は、150 年事業の事業計画や予算につきましてご審議をいただくとともに、皆様から、北海道 150

年に関する取組のご紹介や、来年に向けた意気込みなどをご発言いただける場と、このように考えているところでございます。

道民の皆様方、そして北海道を愛する国内外の方々にとって、心に残る 150 年、2018 年となるよう、皆様方には、それぞれのお立場から、北海道 150 年事業を盛り上げていただきますよう、心からお願いを申し上げる次第であります。本日はよろしくお願いをいたします。

● 佐藤総合政策部長（事務局：北海道）

本日は、総会メンバー89 機関のうち、委員ご本人又は代理での出席が 61 機関となっております、実行委員会規約に定める総会開会の要件を満たしていることをご報告申し上げます。

総会の議長は、規定により、会長が務めることとなっておりますので、以降の議事進行は、会長にお願いいたします。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

それでは、進行を務めさせていただきます。

それでは議事に入ります。はじめに、議事の（1）、【1号議案】規約改正について、事務局から説明します。

● 赤塚北海道 150 年事業室長（事務局：北海道）

本日説明を担当させていただきます、北海道 150 年事業室の赤塚でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。説明に入ります前に、資料の確認をさせていただきたいと思っております。議案の 1 号、2 号、3 号議案にそれぞれ対応した、事務局で用意いたしました資料の 1、2、3 がございます。

そのほかに、北海道遺産協議会第 3 回募集のパンフレット、北海道教育委員会の北海道 150 年事業の関連の取組の資料、また、三重県の井村屋グループとたけしろうカンパニーさんから、この両者はパートナーとして登録をいただいておりますけれども、今般、「十勝日誌」自由訳と言うことで、冊子の提供がございましたので、お手元に配布をしております。ご確認くださいと思います。

それでは早速ですが、一号議案、規約の改正について説明をいたします。実行委員会規約第 4 条に基づきまして、新たに入会した 5 つの団体につきまして、構成員として別表 1 に追加する規定の整理を行うものでございます。追加するのは、資料 1 に記載しておりますとおり、5 つの団体の皆様で、それぞれ役員会の了承を得て追加となっております。改正案は添付資料のとおりでございます。最終ページ、4 ページの下線部分を追加しております。これによりまして、昨年発足当初の 84 団体から 89 団体となっております。説明は以上でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

はい、お疲れ様であります。ただ今説明があった内容について、ご質問等ございましたら挙手を願います。いかがでしょうか。（挙手なし）

それでは、ご質問以外、その他のご発言ありますでしょうか。（発言なし）

それでは、ご発言がないようでありますので、1 号議案につきましては原案のとおり採択をさせていただきます。1 号議案について、ご異議はございませんか。

● 委員

異議なし。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございます。それでは、本件を承認させていただきます。

次に、議事の（２）、【２号議案】事業計画（原案）について、事務局から説明願います。

● 赤塚北海道 150 年事業室長（事務局：北海道）

議案の第 2 号、事業計画の原案について説明をいたします。資料 2 とありますけれども、この資料は大冊になっておりますので、本日はその要点をまとめた資料をパワーポイントで用意しておりますので、そちらを中心に説明したいと思います。適宜、資料 2 のページをご覧くださいと思います。

まず最初に、資料 2 でいきますと 1 ページになりますけれども、北海道 150 年事業の構成について説明をいたします。左側の青い部分、「記念セレモニー」「事業全体の PR 等」となっておりますけれども、記念式典ですとか、北海道 150 年ウィーク、パートナーの皆さんや実行委員会の構成員の取組によりますプロジェクト形式による関連企画、また、年明けの 2018 年キックオフイベント、こうしたものにつきましては、実行委員会が主体となって実施をいたします。もう一方、右側の緑の部分なんですけれども、これは道民の皆様など様々な主体がそれぞれの事業を企画・実施していただくという枠組みでございまして、来年実施していただく事業を「北海道みらい事業」と呼んでおります。この 2 つが車の両輪となって 150 年事業を作っていくという構成になっております。

続きまして、資料ですと 2 ページになります。事業のスケジュールでございまして、2018 年の幕開けまで 1 週間を切りました。こうした中で、年明け早々になりますけれども、実行委員会等で、1 月から 3 月にかけてキックオフイベントを実施いたします。あわせて、パートナーの皆様、また北海道みらい事業ということで、1 月から年間を通じて事業を行っていただく予定となっております。実行委員会といたしましては、記念セレモニー、8 月 5 日の記念式典を中心として 150 年ウィークですとか、子どもに関する事業を進めていきたいと考えてございます。

続きまして、記念式典についてご説明いたします。来年 8 月 5 日、「先人に学び未来につなぐ」というテーマのもとに、北海きたえーるで行います。メインアリーナでは記念式典を行いますが、その他、視聴覚室の会場では、「北海道未来トークセッション」など、全館を活用して行うことを検討しております。

記念式典の具体的な内容です。資料 2 では 4 ページになりますけれども、式典につきましては 3 部構成として企画をしております。第 1 部の式典につきましては、道内出身者のメッセージですとか、道外の道産子のメッセージ、また青少年の誓いなどを予定しております。式典につきましては、道内地域とのライブ中継も企画をしております。第 2 部の記念プログラムに関しましては、最初に、映像によって歴史を振り返る「北海道物語」ですとか、アイヌ文化、地域の伝承芸能など歴史・文化に思いを馳せる演目を企画しております。また、後半部分で次の時代の北海道を支える若者達のパフォーマンスなどで、未来への躍動を感じられる企画を検討しております。第 3 部はスペシャルライブということで、世代を超えて音楽を中心に 150 年をお祝いする企画としたいと考えております。

続きまして、北海道 150 年ウィークについて説明をいたします。資料 7 ページから 9 ページになります。開催期間は 7 月 14 日から 8 月 26 日ということで、ウィークとは称しておりますけれども、1

ヶ月強の期間におきまして記念行事等、様々なテーマで集中的に実施をしていきます。実行委員会といたしましては、7月14日のオープニング、8月26日のエンディングのステージを検討しております。内容につきましては、実行委員会構成員の皆様や、パートナー、道民の皆様が行うみらい事業など、全道各地で実施をしていただく取組でございまして、現在、70を超える取組を登録しております。

続きまして、検討中のものではありませんが、実行委員会主催事業のご説明をいたします。最初に、「子ども未来・夢キャンパス」事業でございまして。これは実行委員会が全体の企画を実施いたしますが、その企画に賛同いただきました道内の大学、短大、高等専門学校の協力のもと、ウィークの期間中を中心とはしますが、様々なイベントを開催いたします。現在、12月8日現在ですけれども、27校、44の事業を登録しております。具体的な内容につきましては、資料16ページの関連企画ですとか、42ページからのみらい事業に掲載しております。

続きまして、「科学イベント」でございまして。これは北海道大学様のご協力というか、実施主体で、最先端の科学技術などを伝えるイベントが計画されております。

下段の方でございまして。北海道と姉妹友好提携を結んでおります6カ国10地域の代表の方を招へいいたしまして、交流を進めていく企画を検討しております。

続きまして、子どもの関係でございまして。「子どもたちの交流」ということで、北海道の名付け親であります松浦武四郎の出身地である三重県、また開拓使の初代判官・島義勇の出身地である佐賀県を想定いたしまして、道外の子供達との交流の実施について検討を進めております。

最後に、「芸術・音楽の紹介・発信」ということで、若い世代の方々による芸術・音楽の発信を行います。時期を、来年の末頃を想定してございまして、北海道150年のイベントをここで締めていきたいと考えております。

続きまして、パートナーの取組につきましてご紹介いたします。パートナーにつきましては、今週末まで4回にわたりまして募集をしておりますが、現在、132の企業・団体の方にパートナーとしてご協力をいただいております。取組の例といたしましては、自社製品ですとかキャンペーン等でのロゴマーク使用などによります北海道150年事業のPR、また、松浦武四郎の探査ルートを尋ねる旅行商品など松浦武四郎関連のイベントを実施していただくといった内容が多くなっております。パートナー企業の皆様の事業につきましては、プロジェクト形式ということで、それにより関連企画として実行委員会の実施事業と位置づけをしてございまして。資料2ですと、11ページから39ページにそれぞれのパートナーの皆様の取組を今後の予定も含めて記載してございまして。

現在行われておりますパートナーの皆様の取組について、2点ご紹介いたします。現在、赤れんが庁舎前庭で、赤れんが庁舎イルミネーションということで、先月の24日から3月14日まで、一部時間を延長していただいて、実施をしていただいております。映像にもありますけれども、北海道150のマークを浮き上がらせていただく演出も設定していただいております。150年のPRをしていただいております。もう一点、これは道産米の100%純米酒の発売ということで、道内の酒造メーカーさんが作ったお酒に、全てのボトルに北海道150年のロゴマークを肩ラベルとして掲示していただいております。消費者向けのPRということでご協力をいただいております。

続きまして、実行委員会構成員の皆様の事業について説明いたします。北海道150年を契機に、新たに取り組んでいただくものを中心に、プロジェクトとして計画・実施をしていただくものでございまして。具体的に申し上げます。北海道遺産協議会様による第3回の北海道遺産選定、教育委員会によります北海道版道徳教材の作成事業など、体育協会様には、北海道150年体育事業を実施していた

だくこととなっております。日本郵便の北海道支社様には、丸型の記念ポストを設置していただくとともに、北海道150年の記念切手の発行も決定をされているところがございます。アイヌ協会様には、「北海道命名150年記念アイヌ民族文化祭」を実施していただく予定となっております。なお、実行委員会構成員の皆様の既存の取組を活用していただくものですか、北海道150年の冠を付けていただくといった取組につきましては、次に説明をいたします「北海道みらい事業」に登載しております。

北海道みらい事業、応援企画について説明をいたします。みらい事業、応援企画につきましては、今週末を締切として2次募集をかけておりますが、更なる取組の広がりを期待するということで、年明け早々の3次募集の実施の予定をしております。12月8日現在ですけれども、来年実施をしていただくみらい事業については、337の事業。今年PRを中心とした応援企画ということで84の事業を登録しております。

みらい事業のテーマ別事業数でございますが、一番多いテーマが「歴史・文化・自然」となっております。次いで、「子ども・未来」。次に「産業・経済・観光」という順番になっております。

具体的な取組事業について少しご説明をいたします。先月、北海道発展の礎となりました鉄道のパネル展が、道庁の赤れんが庁舎で開催されました。そこに、開催の写真を添付しておりますけれども、これにつきましては、過去を振り返って今を知る、また、未来に思いを馳せるきっかけになったかと思えます。当日は盛況な人入りでございました。

もう2点ご説明いたします。「子ども・未来」の関係でございます。これは高校生を対象に、北海道200年へのプロポーズということで、今般、募集をかけておりました。募集は既に終わっております、今、選考に入っていると思えます。

3つめは、観光面でございます。右端にあります「北海道スマホスタンプラリー」ということで、こちらを実施していただきました。特徴的なのは、景品、賞品として、北海道命名150年賞ですとか、150名の方に松浦武四郎賞ということで、こうしたことを通じまして、北海道150年のPRに協力をいただいております。来年もこうした事業が全道各地で予定されております。

続きまして、来年1月から3月の実行委員会の事業ということで、いよいよ2018年の幕開けとなりますけれども、3つご紹介いたします。資料2では77ページに記載をしております。来年4回目を迎えます「札幌モーターショー2018」と連携をいたしまして、150年のステージイベントを開催する予定としております。また、一番下の欄にありますけれども、北海道150年の企画の一環として、道内の小学生を対象にして、「50年後の北海道のクルマ」をテーマに絵画コンテストを実施しております。こうしたことを通じまして、子どもたちにも150年のPRをするということで力をいれているところがございます。

2つめでございます。札幌雪まつりの会場を活用させていただきまして、キックオフイベントを行います。PR内容につきましては、ステージイベントでございますけれども、大氷像を活用したパートナー関連企画ということでございます。具体的には、大通公園2丁目の会場で、北海道命名150年を記念したバースデーケーキの氷像、こちらを活用するという企画がございます。そういった企画を通して、北海道150年を盛り上げていきたいと考えております。

以上2つは札幌市内となりますけれども、地域でもキックオフイベントを行います。パートナーでありますイオン様、HTB様と連携をいたしまして、道内6地域でPRキャラバンを行います。これもステージイベントとなりますけれども、全道各地でPRをしてまいりたいと考えております。

最後に、公式ガイドブックでございます。これは時期に応じて3回発行する予定としております。第1版につきましては、今月末に発行しますが、主に1月から3月のパートナーの事業、みらい事業のイベントガイドとなっております。資料2の説明については以上でございます。

ここで、この大きな絵を提供していただいております、滝川私立明苑中学校の生徒さんたちから、150年に向けたメッセージが届いておりますので、最後にご覧いただければと思います。

(明苑中学校美術部員からのメッセージ)

- ・ 自分が住んでいる北海道に長い歴史があり、多くの文化を創り上げたと思うと驚きです。
- ・ 何年もかけて今の北海道になるためにたくさん犠牲になった人のことを考えると、本当に感謝しなければいけないと思います。
- ・ 素敵な土地を築いていただいております。
- ・ (部員全員で) 北海道 150 年、いえーい!

2号議案の説明については以上でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

はい、ありがとうございました。ただ今説明があった内容について、ご質問があれば挙手願います。(ご質問がないようではありますが、質問以外でも何かご意見なりございましたら、挙手をお願いします。

よろしいでしょうか。それでは、挙手がないようでありますので、質疑を終了させていただきます。

【2号議案】について、採決させていただきます。【2号議案】についてご異議はございませんでしょうか。

● 委員

異議なし。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございます。それでは、本件を承認させていただきます。

次に、議事の(3)、【3号議案】補正予算(案)について、事務局から説明願います。

● 赤塚北海道 150 年事業室長（事務局：北海道）

今回の補正予算案につきましては、寄附・協賛金の受入増に伴う収入及び支出の補正に関することでございます。資料3をご覧ください。収入の部では、寄附・協賛金につきましては、当初予算には2017年6月現在の受入金の寄附・協賛額3,210千円を計上しておりましたが、12月11日現在の実績を元に、7,271千円を補正し、トータル10,481千円とし、収入の計を19,003千円から26,274円とするものでございます。

支出の部につきましては、「4 事業費」のうちの「PR ツール関係」でございまして、パートナー企業と連携をいたしましたPR活動の回数増への対応などのためにPR資材の追加作成が必要となりました。当初予算の予備費で積んでおりました2,383千円の範囲内で手当をすることとし、PR ツール関係の支出を、8,600千円から10,983千円と補正するとともに、収入増の7,271千円と支出増の2,383

千円の差額であります 4,888 千円につきましては、全額を予備費として計上するものでございます。これによりまして、支出の合計といたしまして、19,003 千円から 26,274 千円とするものでございます。説明は以上でございます。

● **高橋はるみ会長（北海道知事）**

はい、お疲れ様です。ただ今説明があった内容について、ご質問ございますでしょうか。挙手をお願いいたします。（挙手なし）

よろしいでしょうか。その他、ご発言はございませんでしょうか。（発言なし）

それでは、ご質問がないようであれば、3号議案について、採決をさせていただきます。

3号議案、補正予算案についてご異議はございませんでしょうか。

● **委員**

異議なし。

● **高橋はるみ会長（北海道知事）**

ありがとうございます。それでは、本件を承認いたします。

それでは、次に、議事の3、「委員の皆様方からのご意見」に移らせていただきます。

皆様から、北海道150年事業に関して、これまでのお取組の状況や、今後の取組予定、あるいは北海道150年に向けた決意など、ご発言をいただければと思う次第であります。本日、ご出席いただいた委員ご本人様のうち、数人の皆様からご発言をお願いできればと思います。

最初に、北海道経済同友会 横内代表幹事、よろしく願いをいたします。

● **北海道経済同友会 横内代表幹事**

北海道経済同友会の代表幹事 横内でございます。北海道と命名されまして150年を迎えるこの機に、北海道のこれまでの歴史を振り返り、また更にこれからの北海道の未来を考える事業が、オール北海道でかくも盛大に取り組まれますことは、大変意義深いことだと思っております。

経済3団体の一つであります、私ども北海道経済同友会におきましては、本事業に協賛する趣旨から、既に全国代表幹事会の会合等で本事業のパンフレットを配付するなど、全国向けの発信に取り組んでまいりました。また、明年8月5日の記念セレモニーをはじめ、会員各社、業界での協賛事業への積極参加を引き続き呼びかけてまいりたいと考えております。

なお、新しい北海道のキャッチフレーズ「その先の道へ、北海道」。その先の道のひとつに、2020年4月24日に白老のポロトコタンにオープンする民族共生象徴空間と国立アイヌ民族博物館がございます。この官民応援ネットワークの代表を私が仰せつかっております関係上、北海道経済同友会といたしましては、150年記念事業をさらにその先の事業につなげてしっかり取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

● **高橋はるみ会長（北海道知事）**

ありがとうございました。それでは次に北海道アイヌ協会の加藤理事長、よろしく願いいたします。

● **北海道アイヌ協会 加藤理事長**

イランカラテ。みなさんどうもこんにちは。私からは、感謝の言葉しかありません。北海道 150 年というこの共生の社会、その理念のもとで開かれるということは、本当に感謝の言葉しかありません。ありがたく思って今日出席しております。

この 150 年についてひとこと言いなさいと言えば、これからの北海道を、人を呼ぶ北海道づくりとしていただければありがたい、そんな思いであります。今、横内代表幹事からお話のありました民族共生象徴空間、2020 年 4 月 24 日オープンに向けて本当に多くの国民の理解を得ながら現在順調に進められており、これについても皆さんにお礼を申し上げて私の言葉としたいと思っております。ありがとうございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございます。それでは次に北海道女性協会 中田理事長、お願いします。

● 北海道女性協会 中田理事長

北海道女性協会 中田でございます。私ども北海道女性協会におきましても、来年 150 年の節目を迎えるにあたりまして、北海道の歴史や文化を見つめなおすことにより、新たな北海道づくりにつなげていくことが大変重要であると認識いたしております。

昭和 49 年から開催しております女性大学におきまして、北海道の歴史や文化に焦点をあてた講座を設定しているところでございます。女性大学は毎年度 1 期、2 期に分けまして、それぞれ 10 講座を設定し、毎回 200 名程度の方が受講されておりますが、今年度は北海道 150 年事業の応援企画に登録をいたしまして、その事業を進めてきたところでございます。第 2 期の女性大学においては、藤女子大の松本先生に「古地図で辿る北海道史—北海道島が描かれていく過程—」と題して講演をいただき、大変好評を博したところでございます。この間、女性大学のリーフレットに 150 年のロゴマークを使用させていただくなどして関心が高まっておりますことから、来年度におきましても、1 期 2 期を通して北海道の歴史や文化に焦点をあてた講座を開催することとし、お手元の資料の 58 ページに書いておりますので、ご一読いただければ幸いです。

先般、北海道みらい事業に登録したところであり、特に来年度におきましては 7 月から 8 月にかけての北海道 150 年ウィークの期間中に、幕末から開拓使期における北海道と世界の繋がりをテーマとした講座を開催することとしておりますので、申し添えておきます。啓発と記憶を探る事業に特化して続けてまいりたいと思っております。以上でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。それでは次に、北海道遺産協議会 石森会長、お願いします。

● 北海道遺産協議会 石森会長

北海道遺産協議会 石森でございます。資料 2 の 40 ページに出ておりますように、北海道遺産協会としまして、150 年記念事業をきっかけとして、北海道遺産の第 3 回目の選定を行う予定です。第 1 回が 2001 年に 25 件、第 2 回が 2004 年に 27 件、現在 52 件が選定されていますが、各地で北海道遺産への追加、新規の選定はないのかという声もいただいておりますので、150 年をきっかけにいたしまして第 3 回目の募集を行うこととしました。皆さんのお手元にカラー版の募集パンフレットを用意させていただいております。既に 12 月から募集を開始しておりまして、今回は「シェアリングヘリテージ」とい

う、地域の宝物を多くの人々とつなぎ、地域づくりにつなげていくという新しいコンセプトのもとで、地域で貴重な宝物を維持管理、活用しておられる皆さんから申請していただき、慎重に審査を行って新たな北海道遺産の選定を行うというものでございます。皆様方におかれましても、各地域で頑張っておられる方々がおられましたら北海道遺産への応募を呼び掛けていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。以上です。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。次は、北海道教育委員会 柴田教育長、よろしくお願いいたします。

● 北海道教育委員会 柴田教育長

私からは道教委の取組について。北海道 150 年事業については、道内のたくさんの児童生徒や学校が様々な形で参加しますが、私からはお手元の資料 1、A 4 横版の「北海道教育委員会における北海道 150 年事業」という資料で、まず説明させていただきたいと思います。左側に、縦に 3 つ（項目が）あります。道教委では、子供たちの学校教育、そして道民の皆様の生涯学習・社会教育、さらには道外の方にも楽しんでいただく文化芸術、この 3 つの分野で取組を進めることにしております。

まず学校教育。一番上に、小さな字で恐縮でありますけども、先ほど事務局から紹介のありました、今年の 5 月に松浦武四郎をはじめ北海道にゆかりのある偉人 16 人を題材とした道徳教材「きたものがたり」というものを作成しております。資料 2 に、そのコピーと目次を載せておりますが、これを道徳教材として、7 月 17 日の北海道みんなの日を中心に、各学校において創意工夫を凝らした教育活動が全道で展開されております。今年度内には、さらに、中学生用の「きたものがたり」と、もう一つ、写真やイラストを使ってわかりやすくした北海道教育史の子供版というのを作成いたしまして、来年度、一部の配布もしようと思っております。北海道みんなの日を中心に、各学校で、道徳あるいはふるさと教育を重点的に展開していきたいと考えております。

そして二つ目の、生涯学習・社会教育のところでございます。今、道立の図書館で所蔵しております開拓の歴史あるいはアイヌの舞踊、さらには昭和の 30 年代から 40 年代くらいの道内市町村における街並みあるいはそれぞれの地域の産業の様子、こういったものを収めたフィルム映像を一斉にデジタル化の作業を鋭意進めておまして、今年度内にはできあがります。それを来年度、著作権上可能なものはインターネット上で公開をいたしまして、多くの方々にご利用いただこうと思っております。さらには、学校での授業、公民館や博物館での展示、そして道民カレッジ講座などでも活用をしていこうと考えております。

そして、三つ目が、一番下の文化・芸術の分野でございます。今、道教委では道内各地の美術館等をネットワークにした「アートギャラリー北海道」を立ち上げることにしております。そこに、ロゴマークがついておりますけれども、来年度はまさにその初年度といたしまして、この北海道 150 年をキーワードにして、各美術館では、例えば真ん中あたりに書いております近代美術館、ここでは、松浦武四郎をモデルとした作品展、あるいは、明治から現代に至る北の美術の流れを俯瞰するような作品を紹介していこうと思っております。そして、三岸光太郎美術館では、若くして才能を発揮した三岸にちなんで、道内の若手芸術家を紹介する展覧会の開催を企画しております。また、旭川美術館では、松浦武四郎ゆかりの地といわれております音威子府村に関係した、地元木材を活用した造形コレクションの展示、函館美術館では、北海道の発展を支えてきた様々な交易に関わる美術コレクション、そして、帯広美術館では、北海道博物館や三重県総合博物館との共同企画であります松浦武四郎特別展、こういったものの開

催を予定しているところであります。

道教委としては、この 150 年、貴重な機会といたしまして、本日お集まりの皆様と一緒連携をしながら、北海道教育そして文化芸術の一層の充実に努めて参りたいと考えております。以上でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。それでは、次に、日本旅行業協会北海道支部 落合支部長、よろしく願いいたします。

● 日本旅行業協会北海道支部 落合支部長

はい、落合でございます。私も旅行業界の団体でございますけれども、協会の方からですね、各社にお声がけしまして、現在、単独で 9 社がそれぞれ得意分野で事業に参画いたします。特に、来年、松浦武四郎の生家も改修工事が終わります。私自身も今年二度、記念館に行っておりますけれども、北海道のことが非常にわかりやすいということがありますので、各社とも三重県と北海道とのそれぞれの交流を深めてもらうようなツアーを（開催していく）。それと、武四郎さんが道内を 6 回も歩かれたと言うことで、いろんなところがゆかりの地として残っています。これに関するバスツアーも、出てくる予定でございます。それから、先ほど横内代表幹事がおっしゃったとおりでございます、「その先の道へ、北海道」ということで、2020 年もどんどん近づいて参りました。国立アイヌ民族博物館、民族共生象徴空間、これをどういうふうにアピールしていくかということです。日本旅行業協会北海道支部の中でも、いろんな会議の中で、どうやって広報し、旅行商品を作り、いろんな方に来ていただけるか、この 150 年事業を契機として取り組んでいきたいと考えております。以上です。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございます。それでは次に、日本銀行札幌支店 小高支店長、よろしく願いをいたします。

● 日本銀行札幌支店 小高支店長

日本銀行 小高でございます。私からは、日本銀行旧小樽支店金融資料館において、来年、北海道みらい事業として登録いただいております特別展について、ご紹介いたしたいと思っております。テーマが「北海道 150 年特別展 開拓使兌換証券と円の誕生」ということでございまして、実施時期は来年の後半を予定しております。開拓使の財源確保のために発行されました開拓使兌換証券ですとか、その他の明治時代初期の紙幣を展示することを通じまして、北海道開拓使などが果たした役割をご紹介したいというふうに考えております。

また、開拓使が使用しておりました「開拓使物産売捌場」というのが日本橋にございまして、私ども日本銀行の最初の本店がその建物を使っておりました。残念ながらこれは関東大震災で焼失してしまったんですけれども、この建物に関する展示もこの特別展において行いまして、日本銀行と北海道との関わりについてご紹介したいということでございます。

実は、この日本銀行旧小樽支店金融資料館におきましては、毎年、特別展を行っております。今年「たてものいろいろ」ということで、お札に描かれている建物ですとか建築家を紹介するという特別展を実施しております。来年、この北海道 150 年事業にあわせまして、みらい事業としてこういうもの

をやらせていただくと。入場無料でございます、ロケーション的にも、小樽の駅から観光地に向かういい場所にあります。この特別展を通じて、北海道開拓期における歴史の情報発信、合わせまして私ども日本銀行と北海道の関わりを多くの皆様を知っていただけるとありがたいなというふうに思っております。以上でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。次に、日本郵便 西澤北海道支社長、よろしく願いをいたします。

● 日本郵便 西澤北海道支社長

本日は一号議案で構成員に入れていただきましてありがとうございます。また、このような紹介をさせていただく機会をいただきまして光栄です。

お手元の資料の 41 ページをご覧になっていただきたいというふうに思っております。先ほどご紹介いただきましたけれども、記念ポストの設置。これは、実は、今年の 8 月に閉館になった、小樽の石原裕次郎記念館の前に立っていました 1 号丸型ポストというポストを持ってきてまして、300 キロくらいあるんですけれども、昭和 24 年製でございます、先ほどパワーポイントで見えていますと、雪まつりが 69 回目ということでしたけれども、昭和 24 年製なので、来年 69 歳になるポストを持ってきて、赤れんがの前の庭に立てて、除幕式をやるということで、道庁様と今、時期とタイミングを最終的に調整させていただいております。そのポストに手紙を入れますと、7 月から 12 月の期間中だけ、特別なスタンプを押しましょと。日付印ですね。そうするとそれが全国に発信していくということになりますので、観光客とか、津々浦々の方々まで知れ渡るといことになろうかと思っております。

それから、特殊切手、記念切手ということになりますけれども、北海道 150 年の記念切手を発行します。総務省に働きかけまして、来年 7 月 13 日の発行を予定しております。北海道の記念切手と言いますと、去年の 3 月 25 日に、北海道新幹線が通ったということで、記念切手が久々に出ましたけれども、それ以来 2 年 4 ヶ月ぶりに、全国の郵便局、2 万 4 千の郵便局で発行ということになります。去年の北海道新幹線の例でいまして、100 万シートを出しておりますので、最終的に何シートになるか詰めておりますけれども、そのくらいの規模感になるのではないかなと考えております。

それから夏は、かもめーるとい暑中見舞いはがきがあるのですが、特別な暑中見舞いはがきを作ります。150 年のロゴ入りの暑中見舞いはがきを作りまして発行していこうと考えています。

それと、北海道には 1,210 局の郵便局がありますけれども、その 1,210 局の郵便局で事業のポスターを掲出して、150 年を盛り上げていこうというふうに考えております。以上です。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。それでは次に、アイヌ文化振興・研究推進機構 中村理事長、よろしく願いをいたします。

● アイヌ文化振興・研究推進機構 中村理事長

ただいま紹介をいただきました中村でございます。私どもの財団では、平成 9 年以来、20 年にわたりましてアイヌ文化振興法に基づく文化の振興や普及啓発に関する事業を、様々な分野で展開しております。平成 20 年にアイヌが日本の先住民族ということについて国会で決議され、その後、有識者懇談会を経て今日の民族共生象徴空間の検討に繋がっています。先ほど北海道アイヌ協会の加藤理事長がその

ことについて謝辞を述べられましたが、このことに関して加藤理事長自身、大変力強くご尽力いただいているわけでございます。

新たな施策の一環としての「民族共生象徴空間」につきましては、先程来お話が出ておりますけれども、私どもの財団が、来年4月に、白老にあります一般社団法人アイヌ民族博物館と合併し、新しい法人となりましてその運営を担うということになっております。

2018年、来年は、民族共生象徴空間の管理運営体制について本格的に準備が開始されるという、そういう節目の年となります。私どもは、この150年事業の基本理念であります、「未来を展望しながら互いを認め合う共生の社会を目指す」という目的に沿いまして、新しい北海道をアイヌ民族との共生によって作っていく、という所存でございますので、どうか皆様のご協力をお願いしたい次第でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

はい、ありがとうございました。それでは次に、事務局構成団体等を代表して、まず、北海道経済連合会の高橋会長、よろしく願いいたします。

● 北海道経済連合会 高橋会長

北海道経済連合会の高橋でございます。150年事業のスタートまで、本当に残すところわずかということでもありますけれども、道経連としましても今年度150年事業を盛り上げるためにPRの年ということで取り組んでおります。会報誌での紹介をはじめとしまして、三重県の松浦武四郎記念館の山本主任学芸員をお招きしまして、特別講演会を開催しました。また、定時総会や、経団連との経済懇談会の場を利用しまして、松浦武四郎パネル展を開催したところでございます。

今年度の取組につきましては、学生を対象に、ICTを活用したスマート農業や、航空宇宙産業など、ICT、IoTを活用した先進的産業を視察していただこうと。これはみらい事業の一環ということでもありますけれども、実施を検討しているところであります。

北海道の経済については、人口減少が進んでいるということで、人手不足の声が多く聞こえてくるという状況であります。特に、生産年齢人口について、学生の就職先が首都圏に奪われるというような状況があるなど、将来的な地域経済の縮小を懸念しているところであります。そういった中で若い世代が北海道に残ってもらうためには、北海道が魅力ある場所であり、魅力ある企業が多くあるということ、どんどん発信をしていくことが必要との思いで、このようなことを考えているということでもあります。

150年事業を通じまして、世界に北海道を発信して、北海道経済活性化に向けて新たな一步を踏み出す年になるということをご期待しているところでございます。皆様、よろしく願い申し上げます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

ありがとうございました。それでは北海道大学、名和総長、よろしく願いをいたします。

● 北海道大学 名和総長

ただ今ご紹介をいただきました、北海道大学の名和でございます。皆様方が非常にお互いに協力してこの北海道150年事業が開催されるということをご説明いただきまして、本当に心強く、これが成功裏に終わると言うことを心から本当に祈念しております。

皆様もよくご存じのように、北海道大学、1876年に札幌農学校として開学しておりまして、今141年。

考えますと、北海道民に愛され、今まで続いてきた。北海道大学もこの中で北海道 150 年事業に参画できるということは非常に嬉しく、何とかしたいというふうに考えてございます。

資料 2 にございますように、北海道大学は一つ、科学的イベントとして参画したいということを考えております。よくよく考えますと、開学のときの教頭には、マサチューセッツ農科大学の学長に来ていただきました。皆さんよくご存じの、「Boys, be ambitious」の、クラーク先生です。それにちなみまして、マサチューセッツ州の方に来ていただくということで、今回はマサチューセッツ州の、残念ながらアマースト校ではなく、MIT という有名な工科系の大学のメディアラボ、皆さん、NHK の「スーパープレゼンテーション」など、テレビで素晴らしいプレゼンテーションをしているのは知っていると思いますが、そのラボの副所長の、石井先生に来ていただくということを考えています。

そう言いますと、石井先生がどうしてもイベント中心と考えられますが、石井先生とお話したところ、北海道の 150 年事業について、世界にメッセージを発信するというようなイベントにしたいというような提案をしていただいております。もともとメディアラボは非常に優れた科学的なことをしておりますので、経験についてお話をさせていただく。そして、その先端の ICT 技術がいかに関係するものや融合しているかということを紹介していただくつもりでございます。先生はお忙しい方で、最初は 8 月 7 日の 1 日と言っていたのですが、ありがたいことに、8 月 6 日も対応していただけるということになりました。そこで、人生論も含めて語っていただけるということになりました。これは是非、若い方々、さらには一般市民にも参画していただいているというふうにご覧いただいております。

振り返ってみますと、東京に背を向けますと、実は、世界が一番近いのが北海道でございます。そういったところを考えますと、この北海道は、世界にどうやって情報を発信させていくかということが必要でございます。今回の 150 年事業についても、是非、世界に発信していきたいと考えております。皆様方、ここは、初音ミクで有名な ICT の事業を行っている地でございます。是非、世界にそういったメディアを使って情報発信していけるよう、一緒に、私、北大も一緒に寄り添いますので、是非そういった事業にさせていただければと思っております。簡単ではございますが、皆様方と協力してこの北海道 150 年事業を成功に導きたいと考えてございます。ご協力のほど、よろしく願いいたします。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

はい、ありがとうございます。以上、11 名の方々から、ご発言をいただきました。それぞれの皆様方から、企画内容であるとか、あるいは、その企画に寄せる熱い思いをご発言いただいたこと、本当に心強く思う次第であります。

それでは、今の 11 名の方のご発言について、ご質問などございましたら、挙手を願います。

あるいは、11 名の方に加えて、こういうことを考えているというご発言も含めて、お願いします。

● 国際協力機構北海道国際センター 友成次長

JICA 北海道国際センターの友成と申します。大変お世話になっております。本日、私どもの所長がどうしても都合がつかみませんので、私、代理で発言させていただきたいと思っております。

今回の事業では、基本的な方向性として「未来志向」が一つ柱に掲げておられるかと思っております。世界の中の北海道の視点で未来の姿を考えていくということだと思っております。

SDG s（エスディーゼーズ）という、未来に向けた開発目標として、2030 年に向けた未来の地球を考えていこうということで、現在、いろんな取組が世界各国、地域で始まっております。当然、北海道も取組が求められているわけです。この 150 年事業の未来志向の中に、SDG s というものは、まさにばっちり

りはまるのではないかと思うのですけれども、私が見る限り SDGs の S も D も G も全くなくて、非常にもったいないかなと思っております。北海道大学さんをはじめ、地域のいろんな NGO の方々、私ども JICA、それから民間企業の方々、こういった方々が未来に向けた地域づくり、地域の活性化という視点で考えていく上で、もう少しこの 150 年事業の「みらい事業」のところに一緒に取り組んでいく形に盛り込めないだろうかと感じた次第でございます。

SDGs というのは、Sustainable Development Goals といひまして、英語で表記され非常にわかりづらいのですが、簡単にいえば、世界の未来を、地球の未来をみんなで考えようということです。それは一人ひとりの取組が求められるという考え方です。まさにこの北海道なら北海道で、一人ひとりの、子ども達をはじめ、市民の皆さん、そして企業の皆さん、あるいは団体の皆さんが考えていく機会にするという意味では、この 150 年事業を活用して連携していくと、大変有効なのではないかなと考えた次第です。是非ご検討いただければと思いますし、JICA 北海道といたしましても、この「みらい事業」に、SDGs に関連して何かご提案申し上げようと考えております。以上でございます。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

はい、ありがとうございました。今のご発言は、11 名それぞれご発言されたどこへということではなく、全体としてのご提案、あるいはアドバイスというように理解をさせていただきました。その意味では、私、事務局の立場から申し上げれば、これからもあまり準備期間はないわけではありますが、それぞれの団体あるいは企業の皆様方と、今 JICA の方からご提案のあったことをどのように活かすことができるのか、議論を加速的に行ってまいりたいと思います。と同時に、JICA さんご自身がまたご提案をされるということでございますので、それについてもまた、事務局としてご相談をさせていただければと思う次第であります。それでよろしいでしょうか。

もうお一人ぐらいご発言があれば、どうぞ挙手をお願いいたします。（挙手なし）よろしいでしょうか。

それでは、これ以上のご発言がないようでありますので、次の議題に移らせていただきます。議事の 4 番「その他」につきまして、事務局から説明願います。

● 赤塚北海道 150 年事業室長（事務局：北海道）

今後の予定についてでございます。今回ご説明をいたしました原案の内容について、来年度の事業内容の詳細ですとか、来年度の予算等を反映させました「事業計画」及び予算につきまして、皆様にご審議いただく総会を、来年 3 月下旬を目途に開催する予定としております。なお、こちらは時節柄もございまして、書面開催とする予定でございます。説明は以上です。

● 高橋はるみ会長（北海道知事）

はい、ありがとうございました。それではそろそろ時間も押してまいりましたが、最後に、全体を通してのご質問、あるいはご発言、ございますでしょうか。（発言なし）よろしいでしょうか。

それでは、ご質問、ご意見がないようでございます。全ての議事を終了させていただきました。議事進行へのご協力を心から感謝するものでございます。

最後に一言、道知事の立場から御礼を申し上げたいと思います。皆様におかれましては今日、本当にお忙しい中、お集まりをいただき、そして代表の何人かの方からご発言をいただいたところでございます。これから来年に向けてもう時間もないわけではありますが、我々道民一人ひとり、そして何よりもこ

の先のさらに 50 年先を担って行くであろう子ども達に、記憶に残るすばらしい一連の事業としていきたいというふうに思っているところがございますので、重ねてのこれからのお力添えを、心からお願いを申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

● **佐藤総合政策部長（事務局：北海道）**

皆様、大変お疲れ様でございました。

今後、皆様とともに検討、準備を進め、「事業計画」の策定作業を進めてまいります。記念式典や 150 年ウィークなどに係る具体の内容については、適宜、共有をさせていただきます。

北海道 150 年に向けて、事務局も精一杯取り組んでいきますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

以上をもって、平成 29 年度第 2 回総会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

（以 上）